

石川縣下一農村ノ榮養調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31129

石川縣下一農村ノ榮養調査

(二月二十四日受附)

金澤醫科大學衛生學教室(主任星野教授)

村上 賢 三

目次

- 一、緒言
- 二、調査方法
- 三、調査ノ結果並ニソノ考察
 - (一)主食物ニ就テ
 - (二)副食物ニ就テ
- 四、總括及考按
 - (三)嗜好品ニ就テ
 - 1 飲酒調査
 - 2 喫煙調査
- 五、結論
- 文獻

一、緒言

吾人人類ガ多數相集リテ構成スル社會ノ狀態ガ次第ニ複雑トナルニ及ビ、殊ニ近代ノ社會組織ガ産業化セラルルニ從ヒ、漸次起リ來ル處ノ一定ノ社會的條件ガ全國民又ハ或一階級ノ健康ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスカニ就キテ幾多ノ研究ヲ必要トスルニ至レリ。

殊ニ近代社會ノ産業化ニヨツテ起リ來ル處ノ社會現象乃至ハ社會ノ病的狀態ニ關スル研究ハ、先ヅ近代文化ノ影響ヲ最モ多ク蒙ムル都市及ビ都市ノ住民ニツキテ行ハレ、最近我國ニ於テモ都市及都市住民ノ社會衛生學的研究ハ日ト共ニ盛シニナリツツアリ。然レドモ都市ト對立スルモノハ農村ニシテ都市ノ住民ニ對立スルモノハ農民ナリ。

都市及都市ノ住民ノ上ニ起リ來ル處ノ問題ハ聽テ農村及農民ノ上ニモ及ブベキハ言フ俟タズ。殊ニ我國ノ如キハ農業國ニシテ農民ハ全人口ノ七割強ノ多キヲ占ム。

故ニ農村及ビ農民ニ對シテノ社會衛生學的研究ハ極メテ重要ナリト言ハザルベカラズ。然ルニ之ニ關シテノ研究ハ都市ノ研究ニ比シテ極メテ寥々タル感アリ。

コノ故ニ余ハ曩ニ「農村家族ノ社會衛生學的考察」(十全會雜誌第三十三卷第九號掲載)ナル論文ニ於テ農村家族ノ「平均婚姻年齡」「平均子女數」「婚姻年齡ト子女數トノ關係」「婚姻持續期間ト子女數トノ關係」「無兒配偶率」「血族婚姻ノ頻度」及ビ「子女ノ死亡率」等ノ問題ニツキ論述スル處アリタルガ、今回ハ昭和三年四月下旬ヨリ同年五月上旬ニ亘リ、我衛生學教室ガ石川縣下ノ一農村ニツキテ行ヒタル衛生調査ノ際、余ガ分擔シタル榮養調査ノ材料ヲ以テ農村榮養ノ一考察ヲ試ミントスルナリ。

二、調査方法

一、調査地 調査地ハ石川縣羽咋郡上甘田村字柴垣ナリ。同村ハ能登半島ノ西海岸ニ沿ヘル地ニシテ羽咋郡ノ中央部ニ位シ、(金澤市ヨリ北東三〇・九哩ヲ距ツ)東ハ越路野村山林中ニ境シ、西ハ日本海ニ面シ、南ハ溪流ニ沿ヒ山林田疇ヲ以テ一ノ宮村ト堺ス。東北ハ田畑山林ヲ以テ下甘田村字中山及中甘田村字岩田、坪野ニ隣シ、林野ヲ隔テ中甘田村字大島ノ地ニ接續ス。

柴垣區ハ同村中最大ノ區ニシテ戸數一七八戸、現住人口九七四人(昭和三年五月一日現在)ヲ有シ三軒茶屋、柴垣、谷内、須田ノ四部落ヨリナル。内柴垣ハ最モ大ニシテ一四九戸ヲ有シ中央部ノ平地ニ位シ、海岸線ト略平行セリ。三軒茶屋ハ南端ノ高地ニテ僅ニ九戸、谷内ハ東南方ノ高

地ニテ十六戸、須田ハ北端平地ノ田畑松林中ニ僅ニ四戸ヲ有スルノミニリ。

同地住民ノ大部分ハ農業ニ従事シ、一七八戸中一四四戸ハ農業ヲ家計ノ主ナル職業トセリ。而シテ内五四戸ハ漁業ヲ兼業セリ。然レドモ漁業ヲ專業トスル者ハ極メテ少數ニシテ僅ニ三戸ノミニナリ。

住民ハ一般ニ質朴ニシテ生活ハ極メテ單調ナリ。唯近年夏期(六月一八月)ハ海水浴場トシテ浴客ノ來ル者次第ニ多キヲ加ヘツツアリ。

コノ地ノ社會ヲ組織スル成員タル住民ノ大部分ハ長ク同地ニ住シ、コノ地方ノ種々ナル影響ヲ受ケ一定ノ風俗習慣道德信仰ヲ有セリ。

二、調査地選定ノ理由 同地ヲ調査地トシテ選定シタルハ、同地ハ海岸ニ

近ク且ツ一般ニ氣象的及ビ地理的條件ノ上ヨリハ健康地ト目サルル農村ナルニ拘ラズ從來同地ノ死亡率ハ比較的高率ニシテソノ原因ハ全ク不明ナリキ。コノ原因ヲ明ニセンガ爲ニハ同地ノ全般ニ亘リ詳細ナル衛生學的調査ヲ必要トス。コレ同地ヲ特ニ選ビ本調査ニ着手シタル所以ナリ。

三、調査期間 昭和三年四月二十七日ヨリ同年五月八日ニ至ル期間ニ調査セリ。

四、調査ノ豫備的行動 實地調査ヲ行フニ當リ、最モ肝要ナル事ハ調査區域ノ人々ニ對シ、ソノ調査ノ趣旨並ニ目的ヲ理解セシメ、以テ調査ノ正確容易ヲ期スルニアリ。コノ考ニ基ヅキ先ヅ村役場當事者並ニ小學校職員等ト協議シ、村ノ主要ナル人々ニ對シテハ、調査ノ趣旨ヲ説明シ、コレ等ノ人々ヲ通シテ一般村民ノ理解ヲ促シ、一方村民一般ニ對シテハ調査開始前ニ講演會ヲ開キ調査ノ趣旨目的ヲ明ニスルト共ニ調査ニ對シ偽

リナキ資料ヲ與ヘラレン事ヲ望メリ。

五、實地調査 實地調査ハ各戸チ一訪問シ對話法ニヨリテ左記ノ「營養調査票」ノ各項ヲ詳細ニ記入セリ。

コノ際對話ノ巧拙、態度ノ如何ニヨリテハ生活ノ真相ヲ知り得ザル事屢々アルヲ以テ、細心ノ注意ト親シミトヲ以テ對話スルニ努メタリ。

一例セバ「朝ノ副食物ハ主ニ^{オカズ}ドシナモノヲ食ベマスカ」ト問ヘバ「多クハ「味噌汁ヤ、漬物ヤ、野菜ノ煮物ヤ、魚モ食ベマス」ト云フガ如キ答ヲナシ、ソノイヅレガ主ナルヤ明カナラズ。カカル場合ニ「朝ノ副食物ハ大低漬物ダケデスカ、味噌汁モ食ベマスカ」ト問ヘバ「大低ハ漬物デスマセマス」トカ「漬物ト味噌汁デス」ノ如ク比較的生活ノ真相ヲ知り得ルガ如キ之ナリ。

(1) 主食物調査ニ於テハ米ノミヲ主食トスルカ、或ハ之ニ麥其他ノモノヲ

榮養調査票		Nr.			
調査日	昭和年月日	富ノ程度			
調年					
氏名		家族數			
住所					
職業					
		朝	晝	夕	其他
主食物	米	玄米			
		半米			
		白米			
		麥			
	其他				
副食物	鳥獸肉				
	鷄卵				
	魚肉				
	野菜				
	大豆				
	其他				
嗜好品	飲酒				
	喫煙				
備考					

混ズルカチ調べ、且ツソノ等互ノ割合及米麥ノ精白ノ度ヲモ調査セリ。

精白ノ度ニ關シテハ先ヅ機械搗ナルカチ調べ且ツ各戸ヨリソノ精白セル米、麥ノ少量宛ヲ貰ヒ受ケ、之ヲ予ジメ同村ノ精米所ヨリ貰ヒ受ケシ精白回數ノ明ナル精白標準米(假ニ命名ス)ト比較シテソノ精白度ヲ決定セリ。勿論米ノ質、種類及乾燥ノ程度如何ニヨリ同一精白回數ニテモソノ精白度ニ多少ノ差異アルチ免ガレズ。然レドモ以上ノ方法ニヨリテソノ精白度ノ大體ヲ窺知スル事ヲ得タリ。

次ニ各戸總人員(大人、子供、乳兒)ニ對シテ一日ノ總主食物量ヲ調査セリ。コレモトヨリ極メテ概括的ナル觀察ニ過ギザルモ、之ニヨリテ大約一人一日當リノ主食物量ヲ推知スルニ便ナラシメントセリ。

三、調査ノ結果並ニソノ考察

本調査ヲ行ヒタル範圍ハ柴垣ノ全戸即一七八戸ニシテ、今コレヲ職業別、貧富別及ビ家族數別ニ分ラバ第一表(一)(二)(三)(四)ノ如シ。

漁業ニ従事スルモノハ主業、兼業合セテ五八戸ニシテ全體ノ三二・五八%ヲ占ム。而シテ漁業ヲ主業トスルモノハ僅ニ三戸ニシテ五八戸ニ對シ五・二%、他ハ皆漁業ヲ兼業トスルモノナリ。漁業ヲ兼業トスルモノノ内最モ大部ヲ占ムルハ、小作農ヲ主業トスルモノニシテ漁業兼業者五五戸中三七戸、即六七・三%ヲ占ム。次デ自作農、自小作農ヲ主業トスルモノ各八戸(各一四・五%)ヲ占ム。

主業農業ニシテ漁業ヲ兼業スルモノハ一四四戸中五四戸(三七・五%)ヲ占メ、小作農六九戸中漁業兼業ハ三七戸(五三・六%)、自小作農二七戸中漁業兼業八戸(二九・六%)、自作農二五戸中漁業兼業八戸(三二・〇%)、地主三戸中漁業兼業一戸(三三・三%)ヲ占ム。而シテ其他ノ職業三四戸中漁業兼業ハ一戸(二・九四%)ノミナリ。(第一表(二)參照)

(2)副食物調査ニ於テハソノ正確ナル量ノ調査ヲ行フ事困難ナルヲ以テ本調査ニ於テハ各戸ノ各食事ニ用フル主ナル副食物ノ種類ヲ調査スルニトドメタリ。而シテソノ種類モ單ニ鳥獸肉、魚肉、大豆、野菜、鷄卵、其他ヲ區別セルノミ。

(3)嗜好品調査

本調査ニ於テハ特ニ飲酒者ト喫煙者ト調査ヲ行ヘリ。コレノ調査ハ兎角正確ナル回答得ガタキヲ以テ調査ニ當リテハ細心ノ注意ヲ拂ヒタリ。飲酒者中毎日常習的ニ飲酒スル者ト時々飲酒スル者トヲ區別シ、又飲酒量ハ少量(一、二合)中等量(三、四合)大量(一升以上)トニ區別セリ。喫煙者ハ常習的ニ喫煙スル者ノミヲ調査セリ。

第一表 (一) 職業別調査戸數

總計	其他	業					地主兼自作農	地主	職業
		計	小作農	自作農	自作農	自作農			
一七八	三四	一四四	六九	二七	二五	二〇	三	實數	
一〇〇・〇〇	一九・一〇	(二〇〇・九〇)	(四七・九二)	(二八・七五)	(二七・三六)	(二三・八九)	(二・〇八)%	百分比	

第一表 (二)

漁業ニ従事スル戸數調査

		戸數	百分比
漁業が主業ノモノ		3	5.2%
漁業が兼業ノモノ	主地主	1	1.7
	自作農	8	13.8
	小作農	8	13.8
	小作農	37	63.8
	其他	1	1.7
合計		58	100.0

原著 村上石川縣下一農村ノ榮養調査

備考

(一) 上記ノ職業ハ家計ノ主ナル職業トス
其他ノ職業 三四戸

(二) 無職 五
日備 運送業
大工 豆腐製造業
漁業 豆腐製造業
左官 表具師
鐵道工 僧侶
官吏 銀行員
易者兼區小使 菓子製造販賣業
小學校教員 保險募集員
湯屋、宿屋兼雜貨商 蠶種販賣業
郵便局長 一

(三) 農業中漁業ヲ兼業スル者ハ五四戸
其他中漁業ヲ兼業スルモノ一戸アリ。

以上ヨリ觀察スレバ農業中小作農ニ屬スルモノハ、ソノ半數以上ハ漁業ヲ兼業セリ。コレハ小作農ニ屬スル人々ニ於テハ農業ヨリノ收入ハ少ク、副收入ヲ得ンガ爲ニ漁業ヲ兼業スルモノ多キガ爲ナラム。

第一表 (四) 家族數別調査戸數

家 族 數	戸 數	
	實 數	百 分 比
1人	8戸	4.49%
2人	12戸	6.74
3人	23戸	12.92
3人 以下小計	43戸	24.16
4人	25戸	14.04
5人	24戸	13.48
5人 以下小計	92戸	51.69
6人	25戸	14.04
7人	23戸	12.92
8人	17戸	9.55
9人	11戸	6.18
10人	5戸	2.81
11人	4戸	2.25
12人	—	—
13人	1戸	0.56
6人以上小計	86戸	48.31
合 計	178戸	100.00

第一表 (三) 貧富別調査戸數

計	IV	V	VI	III	II	I	貧富別	
							實 數	百 分 比
一七八	二	一	一四	一三	一二	三六戸	二〇・二二%	戸 數
一〇〇・〇〇	一・一一	〇・五六	七・八七	七・三〇	六二・九二	二〇・二二%		數

備 考
 上ニ掲グシ貧富別ノ標準ハ村役場ニ於ケル
 年所得決定基本ニヨレルモノニシテ
 I 年所得基本 百圓以下
 II 百圓—三百圓
 III 三百圓—五百圓
 IV 五百圓—七百圓
 V 七百圓—千圓
 VI 千圓以上

而シテ調査當時ノ柴垣ノ現住人口ハ九七四人(昭和三年五月一日現在)ニシテ、ソノ男女別並ニ年齢別人口ハ第二表ノ如シ。

第二表
男女別、年齢別調査人口

年 齡	性別	人 口
滿 2 歲 未 滿	男	29人
	女	24人
	計	53人
滿 2 歲 - 6 歲	男	49人
	女	48人
	計	97人
滿 6 歲 - 10 歲	男	59人
	女	64人
	計	123人
滿 10 歲 - 14 歲	男	58人
	女	44人
	計	102人
滿 14 歲 - 18 歲	男	36人
	女	40人
	計	76人
滿 18 歲 - 65 歲	男	213人
	女	243人
	計	456人
滿 65 歲 以 上	男	21人
	女	46人
	計	67人
合 計	男	465人
	女	509人
	計	974人

(一) 主食物ニ就テ

(1) 主食物ノ種類

本調査地住民ノ主食物ハ米及大麥ニシテ米麥混合炊飯ヲ食スル者ハソノ大多數ナリ。即一七八戸中一一六戸(六五・一七%)ハ米麥混合ニシテ、米ノミヲ常食トスル者ハ一七八戸中五三戸(二九・七八%)、米ニ稀ニ麥ヲ混ズル者ハ一七八戸中九戸(五・〇六%)ナリ。

コレヲ曩ニ内務省衛生局⁽¹⁾及ビ警視廳衛生部⁽²⁾等ガ日本各地ノ農村ニツキテ調査セル結果ト比較スレバ第三表ニ示スガ如ク米麥混食率ハ愛媛縣越智郡清水村ノ八九・〇三%最高ニシテ、東京府西多摩郡戸倉村八七・二二%(警視廳衛生部調査)、山口縣吉敷郡平川村八五・三三%、福井縣今立郡粟田部村約八五%ハ皆本調査ヨリ高率ナリ。然レドモ奈良縣生駒郡筒井村五九・七六%、石川縣羽咋郡中邑知村四〇・一四%(石川縣調査⁽³⁾)ハ本調査ヨリ低率ナリ。又米ノミヲ常食トスル者ノ率ヲ見ルニ、秋田縣山本郡富根村ハ全村コトゴトク米ノミヲ主食トシ、麥其他ノ雜穀ヲ用ヒズ、然レド

第三表 各地農村ノ主食物調査ト本調査トノ比較

調査農村	調査者	年代	米麥混食者 (常ニ)		米ノミヲ食スル者	
			實數(戸)	百分比	實數(戸)	百分比
愛媛縣越智郡 清水村	内務省衛生局	1920 (5-6月)	357	89.03%	29	7.23%
東京府西多摩郡 戸倉村	警視廳衛生部	1924 (5-7月)	198	87.22	20	8.81
山口縣吉敷郡 平川村	内務省衛生局	1919 (6-9月)	442	85.33	76	14.67
福井縣今立郡 粟田部村	同上	1919 (8-11月)	*	約85.00	*	約15.00
奈良縣生駒郡 筒井村	同上	1920 (12月)	150	59.76	101	40.24
石川縣羽咋郡 中邑知村	石川縣	1924 (2月)	116	40.14	171	59.16
秋田縣山本郡 富根村	内務省衛生局	1919 (10-11月)	—	—	293	100.00
本調査**	村上	1928 (4-5月)	116	65.17	53	29.78

* 同村ニ於ケル調査全戸數ハ 640 戸ナリ。

** 本調査中、米ニ稀ニ麥ヲ混ズル者 9 戸ハ除外セリ。

モカカル農村ハ稀ニシテ、石川縣羽咋郡中邑知村ノ五九・一六%、奈良縣生駒郡筒井村四〇・二四%、及ビ本調査ノ二九・七八%等ハ高率ナル部ニ屬セリ。福井縣今立郡粟田部村ノ約一五%、山口縣吉敷郡平川村一四・六七%、東京府西多摩郡戸倉村八八・一%、愛媛縣越智郡清水村七二・三%ハ皆本調査ヨリハ低率ナリ。

本調査地近年ノ傾向ハ一般ニ白米ヲ常食トスル者次第ニ増加シ、麥ヲ食スル者ハ大イニ減少セリト云フ。ソノ理由ハコノ地方ニ用ヒラルル大麥ハ大部分自作麥ニシテ「丸麥」トシテ使用セラルル爲、炊飯ニ當リニ

ル。回炊グ事ヲ要シ不便ナル點ト一方近代人ノ共通性トシテ、ソノ外觀上ノ体裁ト不味ナルヲ喜バザルニアリト稱セラレ。次ニコノ主食物ノ種類ヲ職業別、貧富別及家族數別ニ觀察スレバ第四表(一)(二)(三)(四)ノ如シ。

第四表 (-) 職業別主食物種類調査

主食物種類 職業別		米麥混食者		米食ノミナ者		米ニ稀ニ麥ヲ加フル者		合計	
		實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
農 業	地主	0	—	3	100.00	0	—	3	100.00
	地主兼自作農	11	55.00	8	40.00	1	5.00	20	100.00
	自作農	20	80.00	4	16.00	1	4.00	25	100.00
	自小作農	19	70.37	6	22.22	2	7.41	27	100.00
	小作農	55	79.71	9	13.04	5	7.25	69	100.00
	計	105	72.92	30	20.83	9	6.25	144	100.00
其他	11	32.35	23	67.65	0	—	34	100.00	
合計	116	65.17	53	29.78	9	5.06	178	100.00	

第四表 (二) 純農、漁業及其他ノ職業別ニヨル主食物種類調査

主食物種類 職業別		米麥混食者		米食ノミナ者		米ニ稀ニ麥ヲ加フル者		合計	
		實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
純農業	61	70.11	22	25.29	4	4.60	87	100.00	
漁業 (主業、兼業共)	44	75.86	9	15.52	5	8.62	58	100.00	
其他	11	33.33	22	66.66	0	—	33	100.00	
合計	116	65.17	53	29.78	9	5.06	178	100.00	

第四表(一)ニ示スガ如ク職業別ニ主食物ノ種類ヲ觀察スレバ、農業者ニ於テハソノ大多數(七二・九二%)ハ米麥混食ニシテ唯全體ノ二割強(二〇・八三%)ノミガ米ノミヲ常食トセリ。

反之農業以外ノ職業ニ於テハソノ多數(六七六五%)ハ米ノミヲ常食トシ、米麥混食者ハ三二二三五%ニ過ギズ。農業者中ニ於テモ地主及地主兼自作者ハ一般ニ自作、自小作、小作農ニ比シ米ノミヲ主食トスル者多シ。

第四表 (三) 貧富別主食物種類調査

主食物種類 貧富別	米麥混食者		米食 ノスミ ヲ者		米ニ稀ニ麥 ヲ加フル者		合 計	
	實 數	百分比	實 數	百分比	實 數	百分比	實 數	百分比
I	18	50.00	17	47.22	1	2.78	36	100.00
II	80	71.43	25	22.32	7	6.25	112	100.00
III	9	69.23	4	30.77	0	—	13	100.00
IV	9	64.29	5	35.71	0	—	14	100.00
V	0	—	0	—	1	100.00	1	100.00
VI	0	—	2	100.00	0	—	2	100.00
合 計	116	65.17	53	29.78	9	5.06	178	100.00

第四表 (四) 家族數別主食物種類調査

主食物種類 家族數	米麥混食者		米食 ノスミ ヲ者		米ニ稀ニ麥 ヲ加フル者		合 計	
	實 數	百分比	實 數	百分比	實 數	百分比	實 數	百分比
1人	1	12.50	7	87.50	0	—	8	100.00
3人 以下	14	32.56	27	62.79	2	4.65	43	100.00
5人 以下	49	53.26	38	41.30	5	5.43	92	100.00
6人 以上	67	77.91	15	17.44	4	4.65	86	100.00
合 計	116	65.17	53	29.78	9	5.06	178	100.00

又純農、漁業及其他ノ職業別ニ觀察スレバ漁業ニ従事スル者ハ他ノ兩者ニ比シ、米麥ヲ混食スル者ノ率ヤヤ高く、米ノミヲ食スル者ノ率ハヤヤ低シ。(第四表二(参照) 次ニ第四表三)ニ示スガ如ク貧富別ニ主食物ノ種類ヲ觀察スレバ、何レノ階級ニ於テモ米麥混

食者ハソノ多數ヲ占ム。然レドモ唯富ノ程度低キ「I」ノ階級ニ於テノミ、米麥混食者ト米ノミヲ常食トスル者トノ間ニハ殆ド大差ナク前者ハ五〇・〇〇%、後者ハ四七・二二%ナリ。

此ノ如ク、コノ階級ニ特ニ米ノミヲ常食トスル者多キハ、コノ階級ニ屬スル者ノ多クハ小作農、日傭業及無職等ノ人々ニシテ米ト麥トヲ共ニ耕作スル場合極メテ少ク、多クハ米ノミヲ耕作シ或ハ全ク米ヲモ耕作セズシテ之ヲ購ヒ求ムル者多シ。コノ故ニコノ階級ニ於テ米ノミヲ食スル者ノ率高キナリ。

又家族數別ノ上ヨリ主食物ノ種類ヲ觀察スルニ第四表(四)ノ如ク、家族數小ナル家庭ハ概シテ米ノミヲ主食トスル割合多シ。

例ヘバ家族數三人以下ノ家庭ニテハ米ノミヲ主食トスルモノハ全體ノ六二・七九%ニシテ五人以下ノ家庭ニテハ四一・三〇%ニ減ジ、六人以上ノ家庭ニテハ一七・四四%ニ減少ス。コノ結果ハ曩ニ内務省衛生局⁽¹⁴⁾ガ日本各地ノ農村ニツ

キテ調査セル結果ト全ク一致セリ。

次ニ本調査ニ於テ常ニ米麥ヲ混食スル一一六家族ニツキテ、ソノ米ト麥トノ量的關係ヲ觀察スルニ平均麥ハ米ノ一五六六%ニ當レリ。コノ米ト麥トノ量的關係ヲ各職業別、貧富別及家族數別ノ上ヨリ觀察スレバ第五表(一)(二)(三)(四)(五)ノ如シ。

第五表 (一) 職業別米麥混合率

(米麥混食家族 116戸)

職業別	戸數	米ニ對スル麥ノ割合			
		10 %	10-20%	20%以上	
	戸	戸	戸	戸	
農	地主	—	—	—	
	地主兼自作農	11	1	9	1
	自作農	20	1	17	2
	自小作農	19	2	14	3
	小作農	55	2	41	12
	計	105	6	81	18
其他	11	0	11	0	
合計	116	6	92	18	
全戸ニ對スル百分比	100.00	5.17%	79.31%	15.52	

第五表 (二)

職業別米麥混合率
(米麥混食家族 116戸)

職業別	戸數	米ニ對スル 麥ノ割合	
農	地主	—	
	地主兼 自作	11	13.36%
	自作	20	16.51%
	自小作	19	14.02%
	小作	55	16.61%
	計	105	15.72%
其他	11	14.97%	
合計	116	15.66%	

第五表 (四)

貧富別米麥混合率
(米麥混食家族 116戸)

貧富別	戸數	米ニ對スル 麥ノ割合
I	18	19.92%
II	80	15.79%
III	9	14.29%
IV	9	14.59%
V	—	—
VI	—	—
計	116	15.66%

第五表 (三)

純農、漁業及其他ノ職
業別ニヨル米麥混合率
(米麥混食家族 116戸)

	戸數	米ニ對スル 麥ノ割合
純農業	61	14.56%
漁業 (主業、兼業共)	44	16.88%
其他	11	14.97%
計	116	15.66%

第五表 (五)

家族數別米麥混合率
(米麥混食家族 116戸)

家族數別	戸數	米ニ對スル 麥ノ割合
1人	1	25.00%
3人以下	14	16.22%
5人以下	49	15.09%
6人以上	67	15.83%
計	116	15.66%

第五表(一)(二)ニ示スガ如ク、米麥混食者ニツキ職業別ニ米麥混合ノ割合ヲ觀察スレバ各職業トモ、ソノ大多數ヲ占ムルハ米ニ對シ麥一〇—二〇%ヲ加フル者ナリ(全體ノ七九三—%ヲ占ム)。而シテ農業ニ従事スル者ハ平均一五七二—%、其他ノ職業ハ平均一四九七%ノ麥ヲ加フ。

第六表 各地農村ノ一人一日當リ主食物量ト本調査トノ比較

調査農村	調査者	年代	調査戸數	一人一日當リ主食物量		
				米	麥	合計
秋田縣山本郡 富根村	内務省 衛生局	1919 (10-11月)	293	7.4合	—合	7.4合
静岡縣周智郡 宇刈村	同上	1918 (9-12月)	384	3.6	1.5	5.1
山口縣吉敷郡 平川村	同上	1919 (6-9月)	518	4.0	0.96	4.96
愛媛縣越智郡 清水村	同上	1920 (5-6月)	386	2.7	2.0	4.7
福井縣今立郡 栗田部村	同上	1919 (8-11月)	640	3.39	0.76	4.15
北海道(全道) 代表農家	森本	1924	400	3.3	裸麥 0.8 其他 1.3	5.4
東京府西多摩郡 戸倉村	警視廳 衛生部	1924 (5-7月)	218	1.862	1.543	3.405
本調査	村上	1928 (4-5月)	178	3.4	0.4	3.8

次ニ純農、漁業及其他ノ職業別ニ觀察スレバ第五表(三)ノ如ク、漁業ニ従事スル者ハ他ノ二者ヨリモ麥ヲ加フル割合大ナリ。即純農業者ハ一四・五六%、其他ノ職業ハ一四・九七%ノ麥ヲ加フルニ對シ、漁業ニ従事スル者ハ一六・八八%ノ麥ヲ加フ。又貧富別ニ米麥混合率ヲ觀察スレバ第五表(四)ノ如ク、富ノ程度低キニ從ヒ、一般ニ麥ノ割合多キガ如シ。即「I」ハ一九・九二%、「II」ハ一五・七九%、「III」ハ一四・二九%ナリ。

更ニ家族數別ニ米麥混合率ヲ觀察スレバ第五表(五)ニ示サガ如クニシテ之等ノ間ニハ著シキ關係ヲ認メガタシ。

(2) 主食物一人一日當り量

調査戸數一七八戸ニ對スル現住人口ハ九七四人ニシテ一日ノ總主食物量ハ白米三三四二合、麥四〇五合ナリ。故ニ一人一日當リ主食物量ハ平均白米三・四合、麥〇・四合、合計三・八合ナリ。コレヲ曩ニ内務省衛生局(14)ガ日本各地ノ農村ニツキテ調査セル結果ト比較スルニ、秋田縣山本郡富根村ハ一人一日當リ米ノ消費量七・四合(麥、其他ノ穀類ヲ混食セズ)、静岡縣周智郡宇刈村ハ米三・六合、麥一・五合、計五・一合、山口縣吉敷郡平川村ハ米四・〇合、麥〇・九六合、計四・九六合、愛媛縣越智

郡清水村ハ米二・七合、麥二・〇合、計四・七合(但シ十五歳以上ノ成年一人一日當リ量)、福井縣今立郡粟田部村ハ米三・三九合、麥〇・七六合、計四・一五合ニシテ本調査ノ量ハ最モ少ナリ。

又森本氏⁽¹⁾ガ北海道ニテ調査セル主食物一人一日當リ量モ米三・三合、裸麥〇・八合、其他一・三合、計五・四合ニテ本調査ノ量ヨリモ大ナリ。タダ警視廳衛生部⁽²⁾ガ東京府西多摩郡戸倉村ニ於テ調査セル一人一日當リ量米一・八六二合、麥一・五四三合、計三・四〇五合ハ本調査ノ量ヨリモ少ナリ。(第六表參照)

次ニ既ニ先進諸家ガ研究報告セル如ク一人一日ノ食物需要量ハ年齢、性、及勞働程度等ノ如何ニヨリテ大イニ差異アルモノナルガ、今アトウョーター氏等ニ從ヘバ年齢及性別食物需要指數ハ第七表ノ如シ。

而シテ本調査人口九七四人ハ既ニ第二表ニ示セルガ如キ人口構成ヲ示スヲ以テ、今第七表ニ從ヒ、食物需要量ノ上ヨリ本調査人口全部ヲ假リニ滿十八歳以上滿六十五歳未滿ノ男子ニ換算スレバ六九二・七人トナルナリ。(第八表參照)

第七表 年齢及性別食物需要指數

年 齡	性	食物需要指數
滿18歳-65歳未 滿 (中等度ニ勞働スル者)	男	1.0
	女	0.8
滿65歳 以 上	男	0.9
	女	0.7
滿14歳-18歳未 滿	男	0.8
	女	0.7
滿10歳-14歳 ヲ	兒	0.6
滿 6歳-10歳 ヲ	兒	0.5
滿 2歳- 6歳 ヲ	兒	0.4
滿 2歳 未 滿	兒	0.3

第八表 年齢及性別現住人口ト換算成人人口

年 齡	現住人口		食物需要指數	換算成人人口
	男	女		
滿二歳 未 滿	五三	五三	〇・三	一五・九
滿二歳-六歳 ヲ	九七	九七	〇・四	三八・八
滿六歳-十歳 ヲ	一二三	一二三	〇・五	六一・五
滿十歳-十四歳 ヲ	一〇二	一〇二	〇・六	六一・二
滿十四歳-十八歳 ヲ	三六	四〇	〇・八	二八・八
	三六	四〇	〇・七	二八・〇
滿十八歳-六十五歳 ヲ	二一三	二四三	一・〇	二一三・〇
	二一三	二四三	〇・八	一九四・四
滿六十五歳 以上	二一	四六	〇・九	一八・九
	二一	四六	〇・七	三三・二
計	九七四	九七四	〇・七一	六九二・七

本調査ニ於テハ換算成人人口六九三人ハ現住人口九七四人ニ〇・七一ヲ乘ジタル結果ニ等シ。

コノ換算成人人口(假リニ命名)六九三人ニ對スル一人一日當リ主食物量ハ米四八合、麥〇六合、計五・四合ニ當レリ。

次ニ來ルベキ問題ハ以上ノ主食物量ヨリ攝取シ得ル熱量及蛋白質質量ガ今日吾人ニ保健食料トシテ示サレオル熱量及蛋白質質量ノ幾許ヲ占ムルカノ問題ナリ。

今フオイト及ビコエーニツヒ氏等ノ保健食料ヨリ本邦人ニ適用セル永井氏ノ標準ニ從ヘバ、體重五十五斤ノ日本男子ノ保健食ハ、

安靜時若クバ輕勞働時ニハ、

蛋白質 八〇瓦

脂肪 二〇瓦

含水分素 三六〇瓦

總温價二〇〇〇大カロリー

中等度勞働ノ際ニハ、

蛋白質 九四瓦

脂肪 二五瓦

含水分素 四四〇瓦

總温價二四〇〇大カロリー

劇働時ニハ、

蛋白質 一一〇瓦

脂肪 四〇瓦

含水分素 四四五瓦

總温價 二六五〇大カロリー

トセリ。而シテ食品分析表(6)ニヨレバ白米及大麥ノ蛋白質、脂肪、含水分素、灰分及熱量ハ第九表ノ如シ。故ニコ

レニ基ツキテ本調査地住民ガ實際ニ攝取シツツアル主食物中ニ含有セラルル熱量及蛋白質量ヲ計算スレバ次ノ如シ。

第九表 白米及大麥分析表

大麥(和) (無砂稿)	白米	食 品				百 分 中	
		粗蛋白質	粗脂肪	粗含炭素	灰 分	粗蛋白質 [グラム]	熱量 [大カロリー]
一一・二	七・七	〇・八	七六・八	〇・五七	二八・九	一三二四	三五七
二・一	〇・八	六五・五	一・四一	四三・〇	一二六二	三四〇	

(一本調査地現住人口九七四人ニ對スル一人一日當リ主食物量ヨリ、ソノ含有スル熱量及蛋白質量ヲ算出スレバ第十表ノ如シ。

第十表

一人一日當リ主食物量
ノ含有熱量及蛋白質量
(現住人口 974 人ニ對スル)

計	大 麥	白 米	食 品
三・八 _合 (五五六瓦)	〇・四 _合 (五三瓦)	三・四 _合 (五〇三瓦)	含有熱量(大カロリー)
一九七六	一八〇	一七九六	含有蛋白質量(瓦)
四四・六	五・九	三八・七	

而シテ丸麥飯(米七分、麥三分)ノ吸收率ハ稻葉、家原氏ノ報告ニヨレバ蛋白質六七七%、脂肪八〇%、含水炭素九九・二%ナリト。今假リニコノ吸收率ヲ用ヒテ第十表ノ一人一日當リ主食物量ヨリ吸收セラルベキ熱量及蛋白質量ヲ算出スレバ第十一表ノ如ク總熱量ハ一八四〇大カロリー、蛋白質量ハ三〇・二瓦トナルナリ。

今コノ主食物量ヨリ攝取シ得ル熱量及蛋白質量(利用量)ガ前記ノ保健食料ノ熱量及蛋白質量ノ幾許ヲ占ムルカヲミルニ第十二表ノ如シ。

第十二表

劇働時	中等度労働時		安靜時若クバ輕労働時 (保健食)		(本調査主食物)		(保健食ニ對スル本調査量ノ百分比)		
	熱量	蛋白質量	熱量	蛋白質量	熱量	蛋白質量	熱量	蛋白質量	
	二六五〇 大カロリー	一一〇〇 瓦	二四〇〇 大カロリー	九四〇 瓦	二〇〇〇 大カロリー	八〇〇 瓦	一八四〇 大カロリー	三〇・二	九二・〇
	一八四〇 大カロリー	三〇・二	一八四〇 大カロリー	三〇・二	一八四〇 大カロリー	三〇・二	一八四〇 大カロリー	三〇・二	九二・〇
	六九・四	二七・五	七六・七	三二・一	九二・〇	三七・八	九二・〇	三七・八	九二・〇

第十一表

一人一日ノ主食物量ヨリ攝取シ得ベキ熱量及蛋白質量
(現住人口 974 人ニ對スル)

利用總熱量 (大カロリー)	一瓦ノ熱量 (大カロリー)	吸收セラルベキ量	吸收率	計	大麥	白米	食品量 (瓦)	粗蛋白質	粗脂肪	粗含水炭素	總計
一二三・八	四・二	三〇・二 (瓦)	六七・七%	四四・六	五・三	五〇・三	三八・七 (瓦)	五・九	一・二	四・〇 (瓦)	三八六・三 (瓦)
三・七	九・三	〇・四 (瓦)	八・〇%	五・一	一・二	四二・〇	四・〇 (瓦)	一・二	一・二	四二・〇	四二・〇
一七二・二	四・一	四一七・六 (食)	九九・二%	四二・〇	三・四・七	三・四・七	三・四・七	三・四・七	三・四・七	三・四・七	三・四・七
一八三九・七	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

第十三表

一人一日當リ主食物量ノ含有熱量及蛋白質量
(換算成人人口693人ニ對スル)

食品	食量	含有熱量(大カロリー)	含有蛋白質量(瓦)
白米	四・八 ^合 (七二〇瓦)	二五三五	五四・七
大麥	〇・六 ^合 (七九五瓦)	二六九	八・八
計	五・四 ^合 (七八九瓦)	二八〇四	六三・五

即本調査地住民ハ主食物ヨリ總熱量ニ於テハ保健食ノ約七〇%乃至九〇%ノ熱量ヲトリ、蛋白質量ニ於テハ保健食ノ約三〇%前後ヲトレリ。
(二)次ニ換算成人人口六九三人ニ對スル一人一日當リ主食物量ヨリソノ含有

スル熱量及蛋白質量ヲ算出スレバ第十三表ノ如シ。

而シテ(一)ニ例ヒコノ一人一日當リノ主食物量ヨリ吸收セラルベキ熱量及蛋白質量ヲ求ムレバ第十四表ノ如クニシテ
熱量ハ二六五九大カロリー、蛋白質量ハ四三・〇瓦トナルナリ。

第十四表

一人一日當リノ主食物量ヨリ攝取シ得ベキ熱量及蛋白質量
(換算成人人口693人ニ對スル)

食品	食量(瓦)	粗蛋白質	粗脂肪	粗含水炭素	總計
白米	七一〇	五四・七 ^(瓦)	五・七 ^(瓦)	五四五・三 ^(瓦)	/
大麥	七九	八・八	一・七	五一・七	/
計	七八九	六三・五	七・四	五九七・〇	/
吸收率		六七・七%	八・〇%	九九・二%	/
吸收セラルベキ量		四三・〇 ^(瓦)	五・九 ^(瓦)	五九二・二 ^(瓦)	/
一瓦ノ熱量(大カロリー)		四・一	九・三	四・一	/
利用總熱量(大カロリー)		一七六・三	五四・九	二四二・八〇	二六五九・二

コノ主食物量ヨリ攝取シ得ル熱量及蛋白質量(利用量)ガ前記ノ保健食料ノ熱量及蛋白質量ノ幾許ヲ占ムルカラミルニ第十五表ノ如シ。
即換算成人人口ニヨル一人一日當リノ主食物ヨリ、總熱量ニ於テハ保健食ノ熱量ト殆ド等シキ熱量

第十五表

安靜若クバ輕勞働時	(保健食)		(本調査主食物)		(保健食ニ對スル 本調査量ノ百分比)	
熱 蛋白質 量	二〇〇 八〇	大カロリー 二六五 九	二六五 四三・〇	一〇〇 五三・八	〇 〇	〇 〇
中等度勞働時	熱 蛋白質 量	二四〇 九四	大カロリー 二六五 九	二六五 四三・〇	一〇〇 四五・七	〇 〇
劇働時	熱 蛋白質 量	二六五 一一〇	大カロリー 二六五 九	二六五 四三・〇	一〇〇 三九・一	〇 〇

次ノ標準ヲ示サレタリ。即成年男子ニシテ體重平均五十乃至六十斤、其體表面積一・六七〇乃至一・八八五平方メートル、
ソノ體格ニ適シタル食糧ハ、

普通坐業者ハ日々二二〇〇大カロリーノ食糧ト百瓦弱ノ蛋白質

普通勞働者ハ日々二七〇〇大カロリーノ食糧ト百瓦ノ蛋白質

野外激勞者ハ日々三〇〇〇大カロリー以上ノ食糧ト百二十瓦以上ノ蛋白質

トシ且ツ以上ノ蛋白質ノ三分ノ一内外ヲ動物性蛋白質ヨリ攝取スルコトヲ望マシキ事トセラレタリ。

今本調査地ノ主食物タル米及麥ヨリ攝取シ得ル熱量及蛋白質量(利用量)ガコノ戸田氏ノ示サレタル所要熱量及蛋白質量ノ幾許ヲ占ムルカヲ觀察スレバ次ノ如シ。即

- (一) 現住人口九七四人ニ對スル一人一日當リ主食物量ノ場合ハ第十六表ノ如クニシテ、
- (二) 換算成人人口六九三人ニ對スル一人一日當リ主食物量ノ場合ハ第十七表ノ如シ。

乃至ハソレ以上ノ熱量ヲ攝取シ、
(約一〇〇%乃至一二三%)蛋白質
量ニ於テハ保健食ノ約三九%乃至
五四%ヲ攝取スル結果トナルナ
リ。戸田氏(2)ハ曩ニ「國民榮養論」
ニ於テ本邦人ノ榮養ハ米飯ノ偏食
ニ傾キ總榮養量ノ八割乃至九割迄
ヲ米飯ヨリ攝リツツアル事ヲ述ベ
ラレ且ツ本邦人ノ所要食料トシテ

第十六表

(現住人口 974 人ニ對スル場合)

普通坐業者 (戸田氏ノ標準)	熱量	蛋白質質量	普通労働者	熱量	蛋白質質量	野外労働者	熱量	蛋白質質量
本調査主食物	大カロリー 二二〇〇	一〇〇弱	本調査主食物	大カロリー 二七〇〇	一〇〇	大カロリー 三〇〇〇	大カロリー 三〇〇〇	大カロリー 三〇〇〇
戸田氏ノ標準ニ對スル本調査主食物量百分比	八三・六%	三〇・二%以上	戸田氏ノ標準ニ對スル本調査主食物量百分比	六八・一%	三〇・二%	六二・三%	六二・三%	二五・二%以下

第十七表

(換算成人人口 693 人ニ對スル場合)

普通坐業者 (戸田氏ノ標準)	熱量	蛋白質質量	普通労働者	熱量	蛋白質質量	野外労働者	熱量	蛋白質質量
本調査主食物	大カロリー 二二〇〇	一〇〇弱	本調査主食物	大カロリー 二七〇〇	一〇〇	大カロリー 三〇〇〇	大カロリー 三〇〇〇	大カロリー 三〇〇〇
戸田氏ノ標準ニ對スル本調査主食物量百分比	一一〇・九%	四三・〇%以上	戸田氏ノ標準ニ對スル本調査主食物量百分比	九八・五%	四三・〇%	八八・六%	八八・六%	三五・八%以下

即本調査地住民ノ一人一日當リ主食物量ヨリ攝取シ得ル熱量ハ、現住人口ヲ以テセル場合ニハ、戸田氏ノ示サレタル所要熱量ノ約六〇%乃至八〇%ニシテ、換算成人人口ヲ以テセル場合ハ約九〇%乃至一二〇%以上ニ當レリ。而シテ蛋白質質量ハ前者ニ於テハ戸田氏ノ所要量ノ約二五%乃至三〇%ヲ占メ後者ニ於テハ約四〇%前後ヲ占ム。

要之ニ以上ノ結果ハ曩ニ戸田氏ガ指摘セラレタル所トホボ同一ニシテ本調査地住民ノ食物ハ主食物タル米麥ヨリソノ必要熱量ノ大部分ヲ攝取シ總熱量ニ於テハ不足スルコト少ナキモ之ニ含有セララル蛋白質質量ハ大ナリト云フヲ得ズ。殊ニ脂肪ニ至リテハ、ソノ量極メテ少キヲ以テ之等ノ缺陷ハ當然副食物ニヨリテ補足セザルベカラズ。

故ニ副食物ヨリハ多クノ熱量ヲ攝取スルヲ要セズ。タダ以上ノ主食物中ニ缺クル諸要素ヲ副食物ニヨリテ攝取シ得

ル様考慮撰擇スベキモノナリ。

次ニ以上ノ一人一日當リ主食物量ヲ職業別、貧富別及家族數別ノ上ヨリ觀察スレバ第十八表(一)(二)(三)(四)ノ如シ。

第十八表 (一) 職業別一人一日當リ主食物量

職業別	戸數	現住人口	換算成人人口	現住人口一人一日當り量			換算成人人口一人一日當り量			
				白米	大麥	計	白米	大麥	計	
農 業	地主	3	15 ^人	11.4 ^人	3.3 ^合	— ^合	3.3 ^合	4.4 ^合	— ^合	4.4 ^合
	地主兼自作	20	118	83.6	3.6	0.3	3.9	4.9	0.5	5.4
	自作	25	151	111.4	3.6	0.5	4.1	4.8	0.7	5.5
	自小作	27	155	111.7	3.5	0.4	3.9	4.9	0.6	5.5
	小作	69	396	258.9	3.3	0.5	3.8	4.9	0.7	5.6
	計	144	835	577.0	3.4	0.4	3.8	4.9	0.6	5.5
其他	34	139	99.7	3.4	0.2	3.6	4.6	0.3	4.9	
合計	178	974	676.7	3.4	0.4	3.8	4.8	0.6	5.4	

第十八表 (二) 純農、漁業及其他ノ職業別ニ
ヨル一人一日當リ主食物量

職業別	戸數	現住人口	換算成人人口	現住人口一人一日當り量			換算成人人口一人一日當り量		
				白米	大麥	計	白米	大麥	計
純農	87	473 ^人	320.8 ^人	3.4 ^合	0.4 ^合	3.8 ^合	4.9 ^合	0.7 ^合	5.6 ^合
漁業 (主業兼業共)	58	369	261.2	3.5	0.4	3.9	4.8	0.6	5.4
其他	33	132	94.7	3.3	0.2	3.5	4.6	0.3	4.9
計	178	974	676.7	3.4	0.4	3.8	4.8	0.6	5.4

第十八表(一)(二)ニ示スガ如ク職業別一人一日當リ主食物量ハ農業、漁業ハ其他ノ職業ヨリヤヤ多ク、農業中、地主ハ著シク少ク地主兼自作、自作、自小作及小作農ハ殆ド近似ノ量ニテ大差ナキヲ認ム。即以上ノ結果ハンノ勞働ノ程度ニヨリ自然ソノ要求スル食物量ニモ差異ヲ來ス事ヲ示スモノナリ。

第十八表 (三) 貧富別一人一日當リ主食物量

貧富別	戸數	現住人口	換算成人人口	現住人口一人一日當り量			換算成人人口一人一日當り量		
				白米	大麥	計	白米	大麥	計
I	36	141	68.5	3.3	0.4	3.7	6.6	0.9	7.5
II	112	651	490.3	3.4	0.4	3.8	4.5	0.6	5.1
III	13	65	32.9	3.6	0.4	4.0	6.8	0.8	7.6
IV	14	95	69.4	3.4	0.3	3.7	4.6	0.5	5.1
V	1	10	6.5	4.0	0.5	4.5	5.6	0.7	6.3
VI	3	12	9.1	3.1	—	3.1	3.9	—	3.9
計	178	974	676.7	3.4	0.4	3.8	4.8	0.6	5.4

次ニ貧富別ニヨル一人一日當リ主食物量ヲ觀察スルニ第十八表(三)ニ示スガ如ク之等ノ間ニハ特別ナル關係ハ認め難シ。

第十八表 (四) 家族數別一人一日當リ主食物量

家族數別	戸數	現住人口	換算成人人口	現住人口一人一日當り量			換算成人人口一人一日當り量		
				白米	大麥	計	白米	大麥	計
1人	8	8	6.9	3.8	0.1	3.9	4.2	0.1	4.3
3人以下	43	101	82.1	4.0	0.2	4.2	4.8	0.3	5.1
5人以下	92	321	247.6	3.8	0.4	4.2	4.8	0.5	5.3
6人以上	86	653	429.1	3.3	0.4	3.7	4.9	0.7	5.6
計	178	974	676.7	3.4	0.4	3.8	4.8	0.6	5.4

又家族數ノ上ヨリ一人一日當リ主食物量ヲ觀察スルニ第十八表(四)ニ示スガ如ク大體家族數少キホドソノ一人一日當リ主食物量モ少キガ如シ。然レドモ食物需要量ハ勞働狀態、體重、體表面積ノ如何ニヨリテ大イニ差異アルモノナレバ之ヲ以テ直チニ斷定ハ下シ難シ。

(3) 精 白 度

本調査地ノ住民ハ數年前迄ハ皆手搗ニヨル精米方法ヲ用ヒタルモ近年同地ニ精米所出來テヨリスベテ機械搗トナルニ至レリ。同精米所ノ精米機ハ五馬力ノ清水式精米機ニシテ一七八戸中一七三戸(九七・二%)ハ精米回數四回乃至五回以上ノ米ヲ使用セリ。コノ精白程度ニ於テハ勿論胚芽ハ完全ニ失ハレオルナリ。

米ノ胚芽ガ脚氣病豫防ニ有効ナル事ハ夙ニ照内氏⁽²³⁾ニヨリテ報告セラレタル處ナルガ爾來脚氣豫防ノ目的ヲ以テ島藺氏⁽¹⁸⁾ハ胚芽保存米ヲ推賞シ、下田氏⁽²⁴⁾ハ胚芽ヲ白米中ニ混入シテ炊飯スル方法ヲ推賞シ、照内、大山兩氏⁽²¹⁾ハ「メシザイ(米ノ胚芽)袋式炊飯法ヲ發表シオレリ。

又一方古見氏ガ白米、半搗米、玄米及大麥等ノ蛋白質ニツキ、ソノ生物學的價值ヲ比較實驗セル結果ニヨレバ半搗米ガソノ最高地位ヲ占メ、白米、大麥、玄米之ニ次グノ結果ヲ得タリ。以上述ブルガ如ク胚芽ヲ完全ニ失ヘル白米ハ脚氣豫防ノ見地ヨリ望マシカラザルハ勿論又榮養上ノ見地ヨリスルモ不可ナリト云ハザルベカラズ。然ルニ本調査地ハ現代ノ醫學ノ教フル所ト反對ニ近年ニ至リテ白米ヲ用フル者、次第ニ多キヲ加ヘツツアルハ大イニ注意ヲ要スベキ點ナリトス。

殊ニ同地ニ精米所出來テヨリ近年次第ニ脚氣患者發生シツツアリト云フ同地ノ人々ノ言ト併セ考フル時農村ニ於ケルコノ方面ノ智識ノ普及及ビ精米方法ノ改良乃至ハ白米偏食ニ對スル生活改善ノ必要ヲ痛感スルモノナリ。

(4) 食 事 ノ 回 數

本調査地住民ノ食事ノ回數ハ大部分一日三回ナリ。

唯極メテ少數ノ激勞者乃至ハ漁業專業者等ニ於テ時ニ四回ナル事アルノミ。

(二) 副食物ニ就テ

副食物ノ精細ナル量ノ調査ハ極メテ困難ナルヲ以テ本調査ニ於テハ單ニソノ種類別調査ニトドメタリ。而シテソノ種類モ單ニ鳥獸肉、鶏卵、魚肉、野菜、大豆及其他ヲ區別セルノミ。

今、朝晝夕食別ニ副食物ノ種類ヲ觀察スレバ第十九表(一)(二)(三)ノ如シ。

第十九表 (一)
朝食ノ副食物

副食物種類	戸數	百分比
漬物ノミ	35 ^戸	19.66 [%]
味噌汁(野菜入)ノミ	4	2.25
味噌汁(野菜入)ト漬物	121	67.98
味噌汁(野菜入)ト漬物ト魚類	9	5.06
魚類ト漬物	9	5.06
計	178	100.00

味噌汁ヲ食スル者ハ178戸中134戸即75.28%
魚類ヲトルモノハ178戸中18戸即10.12%

第十九表 (二)
晝食ノ副食物

種類	戸數	百分比
野菜ノ煮物ト漬物	14 ^戸	7.87 [%]
魚類ト漬物	8	4.49
魚類ト野菜	56	31.46
魚類ト野菜ト漬物	99	55.62
晝食ヲトラザルモノ	1	0.56
計	178	100.00

魚類ヲトルモノ 178戸中163戸即91.57%

第十九表 (三)
夕食ノ副食物

種類	戸數	百分比
漬物ノミ	1 ^戸	0.56 [%]
野菜ノ煮物ト漬物	13	7.30
魚類ト漬物	2	1.12
魚類ト野菜ノ煮物	63	35.39
魚類ト野菜ノ煮物ト漬物	99	55.62
計	178	100.00

魚類ヲトルモノ 178戸中164戸即92.13%

朝食ノ副食物ニ於テ味噌汁(野菜入)ヲトル者ハソノ大部分ニシテ全體ノ七五三%ヲ占ム。而シテ味噌汁ノミヲトルモノハ全體ノ二二五%、味噌汁ト漬物ヲトルモノハ全體ノ六七九八%、味噌汁ト漬物ト魚類トヲトルモノハ全體ノ五〇六%ナリ。朝食ニ魚類ヲトル者ハ全體ノ一〇・二%ニシテ、單ニ漬物ノミヲトルモノハ一九六六%ヲ占ム。

(第十九表(一)参照)

晝食ノ副食物ニ於テハ魚類ヲトルモノソノ大多數ニシテ全體ノ九一・五七%ヲ占ム。菜食者ハ僅ニ全體ノ七八七%

ニスギズ。(第十九表(二)參照)

夕食ノ副食物ニ於テモ魚類ヲトルモノ大多數ニシテ全體ノ九二・二三%ヲ占ム。菜食者ハ七二%ニスギズ。要之ニ同地方ニ於テ副食物トシテ比較的魚類ヲトル者多キハ同地ガ海岸ニ沿ヒ魚類ヲ得易キ點ト一方住民ノ一部ガ漁業ニ従事シオル關係ニヨルナリ。

本調査ニ於テハ量ノ詳細ナル調査ナキヲ以テ直チニ論斷シ難キモ以上ノ結果ヨリ、同地ノ住民ガ魚類ヨリ攝取スル動物性蛋白質ハ相當量ニ上ルナラント想像セラル。然レドモ反之テ鳥獸肉、鶏卵等ヲ食スル者ハ極メテ稀レニシテ本調査中カカル回答ヲ與ヘシ者ハ殆ドナカリキ。

調査當時同地ニテ養鶏セル家ハ一七八戸中四九戸ニシテ、親鶏數五九三羽、雛鶏四五〇羽餘ナリキ。然レドモコノ鶏ヨリ得ラルル鶏卵ハ殆ド大部分他地方ニ賣拂ハレ自家用トシテ食用ニ供スル者ハ極メテ少ナキ状態ナリキ。

(三) 嗜好品ニ就テ

嗜好品調査ニ於テハ飲酒者ト喫烟者ノ調査ヲ行ヒタリ。

(1) 飲酒者調査

本調査戸數一七八戸中飲酒スルモノハ九四戸ニシテ、五二・九%ニ當レリ。又飲酒者總數ハ一〇七人ニシテ、スベテ男子ナリキ。之ガ現住人口九七四人ニ對シテハ一〇・九九%、滿十五歳以上ノ男女計五八〇人ニ對シテハ一八・四五%、滿二十歳以上ノ男女計四九二人ニ對シテハ二一・七五%ニ當レリ。更ニ滿二十歳以上ノ男子二二〇人ニ對シテハ四八・四%ニ當レリ。即二十歳以上ノ男子ニ於テハソノ約半數ハ飲酒セリ。以上ノ結果ヲ日本各地ノ農村ニ於ケル飲酒率ト比較スレバ第二十表ニ示スガ如ク本調査ノ結果ハ中間ニ位セリ。

第二十表 各地農村ノ飲酒調査ト本調査トノ比較

調査地	調査者及 年代	調査人員(滿15歳)		計	飲酒者率(調査人員ニ對スル)			滿20歳以上男子ノ 飲酒者率			飲酒ノ種類					
		男	女		男	女	計	檢査人員	飲酒者	百分比	常用	時々	計			
愛媛縣越智郡 清水村	内務省衛生局 (1920)	658人	589人	1,247人	546人	82.98%	90人	15.28%	636人	51.00%	546人	519人	95.05%	435人	111人	546人
山口縣古賀郡 平川村	〃	799	917	1,716	556	69.59%	156	17.01%	712	41.49%	701	516	73.61%	312	244	556
東京府西多摩 郡戸倉村	警視廳衛生部 (1924)	383	385	768	231	60.31%	21	5.45%	252	32.81%	325	223	68.62%	105	126	231
福井縣今立郡 粟田部村	内務省衛生局 (1919)	753	827	1,580	407	54.04%	53	6.41%	460	29.11%	653	400	61.26%	—	—	—
佐賀縣杵島郡 佐留志村	〃 (1921)	606	680	1,283	297	49.01%	35	5.15%	332	25.88%	1,084	308	28.41%	82	215	297
秋田縣山本郡 富根村	〃 (1919)	509	506	1,015	230	45.19%	9	1.78%	239	23.55%	423	224	52.96%	42	188	230
奈良縣生駒郡 筒井村	〃 (1920)	390	391	781	172	44.10%	11	2.81%	183	23.43%	—	—	—	—	—	—
靜岡縣周智郡 宇刈村	〃 (1918)	662	660	1,322	246	37.16%	10	1.52%	256	19.36%	547	252	49.07%	115	131	246
本 調 査	村 上 (1928)	260	320	580	107	41.15%	—	—	107	13.45%	220	107	48.64%	43	64	107

次ニ一戸中ノ飲酒者數ヲ觀察スレバ、

飲酒者 戸 數

一 戸 中 一 人 八 二 戸 八 七 三 三 %
 同 二 人 一 一 戸 一 一 七 〇 %
 同 三 人 一 一 戸 一 〇 六 六 % ナリ。

次ニ以上ノ飲酒者一〇七人中毎日飲酒スル者ハ四三人(四〇・一九%)、他ノ六四人(五九・八一%)ハ時々飲酒スル者ナリ。コノ毎日飲酒スル四三人中少量(一、二合)ノモノハ三二人(七二・〇九%)、中等量(三、四合)ノモノハ九人(二〇・九三%)、大量(一升以上)ノモノハ三人(六・九八%)ナリキ。

又時々飲酒スル六四人中少量ノモノハ四三人(六七・一九%)、中等量ノモノハ八人(二二・五〇%)、大量ノモノハ一人(二・三二%)ナリ。

次ニ飲酒者ヲ職業別、貧富別及ビ家族數別ノ上ヨリ觀察スレバ第二十一表(一)(二)(三)ノ如シ。

第二十一表 (一) 職業別飲酒者調査

職業別	現住人口	滿二十歲以上人口			飲酒者		現住人口ニ對スル飲酒者百分比	滿二十歲以上人口ニ對スル飲酒者百分比	滿二十歲以上男子人口ニ對スル飲酒者百分比	
		男	女	計	毎日飲酒スルモノ	時々飲酒スルモノ				
地主	15	4	5	9	2	0	2	13.33%	22.22%	50.00
地主兼自作	118	25	37	62	4	6	10	8.47	16.13	40.00
自作	151	37	44	81	12	9	21	13.91	25.93	56.76
自小作	155	38	42	80	7	6	13	8.39	16.25	34.21
業小作	396	81	98	179	13	31	44	11.11	24.58	54.32
計	835	185	226	411	38	52	90	10.78	21.90	48.65
其他	139	35	46	81	5	12	17	12.23	20.99	48.57
合計	974	220	272	492	43	64	107	10.99	21.75	48.64

第二十一表 (二) 貧富別飲酒者調査

貧富別	現住人口	満二十歳以上人口			飲酒者			現住人口ニ對スル飲酒者百分比	満二十歳以上ノ男女計人口ニ對スル飲酒者百分比	満廿歳以上ノ男子人口ニ對スル飲酒者百分比
		男	女	計	毎日飲酒スルモノ	時々飲酒スルモノ	計			
I	141 ^人	24 ^人	48 ^人	72 ^人	3 ^人	9 ^人	12 ^人	8.51%	16.67%	50.00%
II	651	156	168	324	27	47	74	11.37	22.84	47.44
III	65	15	18	33	8	1	9	13.85	27.27	60.00
III	95	20	31	51	2	7	9	9.47	17.65	45.00
V	10	2	3	5	1	0	1	10.00	20.00	50.00
VI	12	3	4	7	2	0	2	16.67	28.57	66.67
計	974	220	272	492	43	64	107	10.99	21.75	48.64

原著 村上石川縣下一農村ノ榮養調査

第二十一表 (三) 家族數別飲酒者調査

家族數	現住人口	満二十歳以上人口			飲酒者			現住人口ニ對スル飲酒者百分比	満二十歳以上ノ男女計人口ニ對スル飲酒者百分比	満廿歳以上ノ男子人口ニ對スル飲酒者百分比
		男	女	計	毎日飲酒スルモノ	時々飲酒スルモノ	計			
1人	8 ^人	3 ^人	5 ^人	8 ^人	0 ^人	2 ^人	2 ^人	25.00%	25.00%	66.67%
3人以下	101	31	47	78	9	8	17	16.83	21.79	54.84
5人以下	321	87	119	206	20	27	47	14.64	22.82	54.02
6人以上	653	133	153	286	23	37	60	9.19	20.98	45.11
計	974	220	272	492	43	64	107	10.99	21.75	48.64

即職業別並ニ貧富別ニ飲酒者ヲ觀察スルモ之等ノ間ニハ特別ナル關係ハ認メガタシ。タダ家族數別ニ飲酒者ヲ觀察スレバ、家族數ノ大ナルホド飲酒者率ハ低キ結果ヲミルナリ。而シテコノ關係ハ滿二十歲以上ノ男子人口ニ對スル飲酒者百分比ニ於テ著明ナリ。

(2) 喫烟者調査

調査戸數一七八戸中喫烟スルモノハ二〇戸、即六七・四二%ヲ占ム。又喫烟者總數ハ一四七人ニシテ男一四〇人、女七人ナリ。コノ一四七人ハ現住人口九七四人ニ對シテハ二五・〇九%、滿十五歲以上ノ男女計五八〇人ニ對シテハ二

第二十二表 各地農村ノ喫烟調査ト本調査トノ比較

調査地	調査者及 ビ年代			喫烟者率(調査人員ニ對スル)						滿二十歲以上 ニ對スル								
	男	女	計	男			女			男	女	計	男			女		
				實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比				實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
佐賀縣杵島 郡佐留志村 (1921)	603	680	1,283	358	59.37%	157	23.09%	515	40.14%	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福井縣今立 郡栗田部村 (1919)	753	827	1,580	477	63.35	122	14.75	599	37.97	653	—	—	400	61.26	—	—	—	—
東京都西多 摩郡戸倉村 (1924)	383	385	768	227	59.27	60	15.58	287	37.37	325	330	655	222	68.31	59	17.88	281	42.90
愛媛縣越智 郡清水村 (1920)	658	589	1,247	286	43.47	69	11.71	355	28.47	546	502	1,048	271	49.63	69	13.75	340	22.44
秋田縣山本 郡益根村 (1919)	509	506	1,015	239	46.95	7	1.38	246	24.24	423	420	843	226	53.43	7	1.67	233	27.64
靜岡縣周智 郡宇刈村 (1918)	662	660	1,322	255	38.52	52	7.88	307	23.22	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口縣吉敷 郡平川村 (1919)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	701	787	1,488	380	54.21	152	19.31	532	35.75
本調査 村 (1928)	260	320	580	140	53.85	7	2.19	147	25.34	220	272	492	140	63.64	7	2.57	147	29.88

第二十三表 (一) 職業別喫烟者調査

職業別	現住人口	満二十歳以上人口			喫烟者			現住人口ノ 喫烟者ノ 百分比	満二十歳以上ノ 男子ノ 喫烟者ノ 百分比	満二十歳以上ノ 人口ノ 喫烟者ノ 百分比	
		男	女	計	男	女	計				
農業	地主	15 ^人	4 ^人	5 ^人	9 ^人	3 ^人	2 ^人	5 ^人	33.33%	55.56%	75.00%
	地主兼自作	118	25	37	62	15	0	15	12.71	24.19	60.00
	自作	151	37	44	81	25	0	25	16.56	30.86	67.57
	自小作	155	38	42	80	19	1	20	12.90	25.00	50.00
	小作	396	81	98	179	55	3	58	14.65	32.40	67.90
	計	835	185	226	411	117	6	123	14.73	29.93	63.24
其他	139	35	46	81	23	1	24	17.27	29.63	65.71	
合計	974	220	272	492	140	7	147	15.09	29.88	63.64	

原著 村上石川縣下一農村ノ榮養調査

一七八八

五三四%、満二十歳以上ノ男女計四九二人ニ對シテハ二九八八%ナリ。而シテ男ノ喫烟者一四〇人ハ満二十歳以上ノ男子二二〇人ニ對シテ六三六四%ニ當レリ。即満二十歳以上ノ男子ニアリテハ、ソノ六割以上ハ喫烟セリ。以上ノ結果ヲ日本各地ノ農村ニ於ケル喫烟率ト比較スレバ第二十二表ニ示スガ如ク、満二十歳以上ノ男子ノ率ハ本調査ノ結果ハ高率ナル部ニ屬セリ。

次ニ一戸中ノ喫烟者數ヲ觀察スレバ、

喫烟者 戸數

一戸中 一人 九七戸 八〇・八三%

同 二人 二〇戸 一六・六七%

同 三人 二戸 一・六七%

同 四人 一戸 〇・八三% ナリ。

以上ノ喫烟者ヲ職業別、貧富別及ビ家族數別ニ觀察スレバ第二十三表(一)(二)(三)ノ如シ。

第二十三表 (二) 貧富別飲酒者調査

貧富別	現住人口	満二十歳以上人口			喫煙者			現住人口ニ對スル喫煙者ノ百分比	満二十歳以上ノ男女計人口ニ對スル喫煙者百分比	満二十歳以上ノ男子人口ニ對スル喫煙者百分比
		男	女	計	男	女	計			
I	141 ^人	24 ^人	48 ^人	72 ^人	16 ^人	2 ^人	18 ^人	12.77%	25.00%	66.67%
II	651	156	168	324	99	3	102	15.67	31.48	63.46
III	65	15	18	33	8	0	8	12.31	24.24	53.33
III	95	20	31	51	12	0	12	12.63	23.53	60.00
V	10	2	3	5	2	0	2	20.00	40.00	100.00
VI	12	3	4	7	3	2	5	41.67	71.43	100.00
計	974	220	272	492	140	7	147	15.09	29.88	63.64

原著 村上石川縣下一農村ノ榮養調査

第二十三表 (三) 家族數別飲酒者調査

家族數	現住人口	満二十歳以上人口			喫煙者			現住人口ニ對スル喫煙者ノ百分比	満二十歳以上ノ男女計人口ニ對スル喫煙者百分比	満二十歳以上ノ男子人口ニ對スル喫煙者百分比
		男	女	計	男	女	計			
1人	8 ^人	3 ^人	5 ^人	8 ^人	3 ^人	1 ^人	4 ^人	50.00%	50.00%	100.00%
3人以下	101	31	47	78	18	1	19	18.81	24.36	58.06
5人以下	321	87	119	206	54	0	54	16.82	26.21	62.07
6人以上	653	133	153	286	88	5	93	14.24	32.52	66.17
計	974	220	272	492	140	7	147	15.09	29.88	63.64

即職業別、貧富別及ビ家族數別ノ上ヨリ喫烟者ヲ觀察スルモ之等ノ間ニハ特別ナル關係ハ認メ難シ。

四、總括及ビ考按

以上各項ニ亘リテ述ベタル處ヲ總括スレバ左ノ如シ。

本調査地タル石川縣羽咋郡上甘田村字柴垣區ハ現在戸數一七八戸(昭和三年五月一日現在)ヲ有シ、内農業一四四戸(八〇・九〇%)、其他ノ職業ハ三四戸(一九・一〇%)ナリ。而シテ漁業專業者ハ僅ニ三戸、農業ト漁業トヲ兼業スル者ハ五五戸ナリ。

コノ一七八戸ニ對スル現住人口ハ九七四人(昭和三年五月一日現在)ナリ。

本研究ハ以上ノ農村ニ於ケル榮養狀態ノ調査並ニ考察ニシテソノ結果ハ、

(一) 主食物ニ就テ

(1) 種類…本調査地住民ノ主食物ハ米及大麥ニシテ、一七八戸中一一六戸(六五・二七%)ハ米麥混合炊飯ヲ食セリ。

米ノミヲ常食トスル者ハ一七八戸中五三戸(二九・七八%)ナリ。コノ米ノミヲ常食トスル者ノ率ニツキ日本各地ノ農村ト比較スルニ本調査ノ結果ハ高率ナル部ニ屬セリ。

本調査地近年ノ傾向ハ一般ニ白米ヲ常食トスル者次第ニ増加シツツアリ。

職業別ニ主食物ノ種類ヲ觀察スルニ、農業者ハ大部分米麥混合食ナルニ反シ、其他ノ職業ニテハ、ソノ多數ハ米ノミヲ常食トセリ。又農業者中ニ於テモ地主及地主兼自作者ハ自作、自小作及小作農ニ比シ米ノミヲ常食トスル者多シ。

次ニ貧富別ニ主食物ノ種類ヲミレバ、大體ニ於テ何レノ階級共米麥混合食者ハソノ多數ヲ占ム。タダ富ノ程度低キ「I」ノ階級ニ於テノ米ノミヲ常食トスル者ノ率高ク殆ド全體ノ半數ニ達セリ。此ノ如クコノ階級ニ特ニ米

ノミヲ常食トスル者ノ多キハ、コノ階級ニ屬スル者ハ米ト麥トヲ共ニ耕作スル場合少ク、多クハ米ノミヲ耕作シ或ハ米ヲモ全ク耕作セズシテ之ヲ購ヒ求ムル者多キガ爲ナリ。

又家族數別ノ上ヨリ主食物ノ種類ヲ觀察スレバ、家族數ノ小ナル家庭ハ概シテ米ノミヲ食スル者多シ。

(2) 米ト麥トノ割合…米ト麥トヲ主食トスル一六戸ニツキ米ト麥トノ量的關係ヲミレバ、平均麥ハ米ノ一五六六%ニ當レリ。而シテ大多數ヲ占ムルハ一〇%乃至二〇%ヲ加フル者ナリ。

(3) 主食物一人一日當リ量

調査戸數一七八戸ノ現住人口ハ九七四人ニシテ之ニ對スル一人一日當リ主食物量ハ米三四合、麥〇四合、合計三八合ナリ。コノ量ヲ日本各地ノ農村ニ於ケル量ト比較スレバ本調査ノ量ハ最少ノ部ニ屬セリ。

換算成人人口ニ對スル一人一日當リ主食物量ハ、米四八合、大麥〇六合、計五四合ナリ。

次ニ以上ノ一人一日當リ主食物量ヨリ攝取シ得ル熱量及蛋白質量ガ日本人ノ保健食料ニ對シ幾許ニ當レルカヲミレバ、

現住人口ニ對スル一人一日當リ主食物量ノ場合ニハ、總熱量ニ於テハ保健食ノ七〇%乃至九〇%ノ熱量ヲトリ、蛋白質量ニ於テハ保健食ノ約三〇%前後ヲトリ得ル結果トナレリ。

換算成人人口ニ對スル一人一日當リ主食物量ノ場合ニハ總熱量ニ於テハ保健食ノ熱量ト殆ド等シキ熱量乃至ハソレ以上ノ熱量ヲ攝取シ(約一〇〇%—一二三%)、蛋白質量ハ保健食ノ約三九%乃至五四%ヲ攝取シ得ル結果トナレリ。

卽本調査地住民ノ食物ハ主食物タル米麥ヨリ、ソノ必要熱量ノ大部分ヲ攝取シ、總熱量ニ於テハ不足スル事少ナキモ之ニ含有セラルル蛋白質量ハ大ナラザルノミナラズ、又ソノ蛋白質ノ種類モ一方ニ偏セリ。殊ニ脂肪ニ至リテハ、ソノ量極メテ少ナシ。而シテ之等ノ缺陷ハ、主食物ヲ變化セザル限り當然副食物ニヨリテ補足セザ

ルベカラズ。

次ニ職業別、貧富別及ビ家族數別ノ上ヨリ一人一日當リ主食物量ヲ觀察スルニ、之等ノ間ニハ特ニ注意スベキ事項ヲ見出サズ。

(4) 精白度：本調査地ハ近年ニ至リ、スベテ機械搗ノ米ヲ使用シ、胚芽ノ完全ニ失ハレタル米ヲ食セリ。

コノ點ハ脚氣豫防ノ見地ヨリスルモ、又榮養學上ノ見地ヨリスルモ、將來慎重ニ考慮シ改善ヲ要スベキ點ナリ。

(5) 食事ノ回數：大部分一日三四ナリ。

(二) 副食物ニ就テ

朝食ノ副食物ニ於テソノ大部分ヲ占ムルモノハ味噌汁(野菜入)ナリ。魚類ヲ攝ルモノハ全體ノ約一割、漬物ノミヲ用フルモノハ約二割ヲ占ム。

晝食並ニ夕食ノ副食物ニ於テ大多數ヲ占ムルモノハ魚類ナリ。要之ニ同地方ニ於テハ副食物トシテ比較的魚類多ク用ヒラル。コレハ同地ガ海岸ニ沿ヒ、住民ノ一部ガ漁業ニ從事シオルガ爲ナリ。

以上ノ如ク本調査地ノ住民ハ魚類ヨリスル動物性蛋白質ハ相當ニ攝取シオルニ反シ、鳥獸肉、鶏卵等ヲ食スル者ハ極メテ少ナシ。

(二) 嗜好品ニ就テ

(1) 飲酒者調査：飲酒戶數ハ一七八戸中九四戸ニシテ、五二・九一%ニ當レリ。飲酒者總數ハ一〇七人ニシテ、現住人口九七四人ニ對シテハ一〇・九九%、滿二十歲以上ノ男女計四九二人ニ對シテハ二二・七五%、滿二十歲以上ノ男子二二〇人ニ對シテハ四八・六四%ニ當レリ。即滿二十歲以上ノ男子ニ於テハソノ約半數ハ飲酒セリ。

(2) 喫烟者調査：喫烟戶數ハ一七八戸中二二〇戸ニシテ六七・四二%ニ當レリ。喫烟者總數ハ一四七人ニシテ、現住人口九七四人ニ對シテハ一五・〇九%、滿二十歲以上ノ男女計四九二人ニ對シテハ二九・八八%、滿二十歲以上

ノ男子二二〇人ニ對シテハ六六・八二%ニ當レリ。
即喫烟者ノ率ハ飲酒者ヨリモヤヤ高率ナリ。

五、結 論

以上ヨリ結論スレバ左ノ如シ。

- 一、本調査農村ノ主食物ハ米ト大麥ナレドモ近年次第ニ麥ヲ廢シ米ノミヲ主食トスル者多キヲ加ヘツツアリ。米ト麥トノ混合ノ割合ハ平均麥ハ米ノ約一割半ナリ。
- 二、米ノ精白方法ハ近年ニ至リ機械搗トナリ、胚芽ノ完全ニ失ハレタル白米ヲ食セリ。コノ點ハ脚氣豫防ノ見地ヨリスルモ、又榮養學上ノ見地ヨリスルモ將來改善ヲ要スベキ點ナリトス。
- 三、本調査農村ニ於テモ他ノ農村ト同様ニソノ必要熱量ノ大部分ハ主食物タル米麥ヨリ攝取シ、一人一日當リ主食物量ハ三・八合(現住人口ニ對シ)乃至五・四合(換算成人人口ニ對シ)ナリ。而シテコノ量ハ他ノ農村ノ量ニ比シ最少ノ部ニ屬セリ。
- 四、副食物ノ種類ハ比較的少ナケレドモ、他ノ農村ニ比スレバ魚類ヲ多ク攝取ス。反之鳥獸肉、鶏卵ヲ攝取スル者ハ極メテ少ナシ。
- 五、本調査農村ニ於ケル住民ノ榮養ハ總熱量ニ於テハ不足セザルモ、ソノ食品ノ種類從ツテソレニ含有セラレル榮養素ノ種類ハ充分ナリトハ言ヒ難キガ如シ。
- 六、飲酒者ハ滿二十歳以上ノ男子ニ於テハソノ半數ヲ占ム。
- 七、喫烟者ハ滿二十歳以上ノ男子ニ於テハソノ約六割以上ヲ占ム。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲トヲ賜リタル星野教授ニ對シ衷心ヨリ感謝シ、併セテ本調査ニ當リ多大ノ便宜ヲ與ヘラレタル上甘田村役

報ノ年次報ニ因テ營養ノ調査ニ對シテ類々表ス。(昭和三十二年十二月二十二日號)

文 獻

1) **Chajes**, : Kompendium der sozialen Hygiene. Berlin. (1923). IV. Kapitel. Soziale Hygiene der Ernährung. S. 53-63. VII. Kapitel. Alkoholismus. S. 105-118.

2) **Chittenden**, : The Nutrition of Man. new York. (1907)

3) **藤原九十郎、山田俊太郎** : 都市民ノ食料調査其一、大阪市内某商店員ノ食料調査、國民衛生、第1卷、第6號、P. 23-41. 大正13年2月(1924)。

4) **石川藤三** : 羽咋郡中邑知村農村保健衛生狀態實地調査報告書、大正15年4月(1926)、第八章、飲食物ニ關スル調査 P. 60-67. 第十章、飲酒、喫煙 P. 69-71.

5) **柿内三郎** : 生化學提要、(1925) 第十四編、代謝及營養 P. 647-688.

6) **川上登喜二** : 營養及食品、昭和2年11月(1927)。

7) **河田鶴郎** : 食糧ト社會、大正13年6月(1924)。

8) **警視廳衛生部** : 東京府西多摩郡戸倉村ニ於ケル農村保健衛生實地調査報告、大正14年7月(1925)、第八章、飲食物ニ關スル調査 P. 103-127. 第九章、飲酒及喫煙 P. 127-130.

9) **McCollum** : The newer knowledge of Nutrition. new york. (1923).

10) **宮入慶之助** : 食々方問題、大正12年12月(1923)、續食々方問題、大正13年12月(1924)。

11) **森本厚吉** : 生活問題、大正9年3月(1920) 農民食糧ノ一考察、農業世界、第19卷、第10號、P. 2-17. 大正13年8月(1924)。

12) **Mendel**, : Nutrition. The Chemistry of Life. California. (1923)。

13) **名古屋社會課** : 常備労働者生活狀態、大正12年11月(1923)、第十九章、飲酒調 P. 85-87.

14) **內務省衛生局** : 各國ニ於ケル食糧問題、大正8年2月(1919)。

靜岡縣周智郡宇刈村ニ於ケル保健衛生狀態實地調査報告、大正10年2月(1921)。

山口縣吉敷郡平川村ニ於ケル農村保健衛生狀態實地調査報告、大正10年3月(1921)。

東京市京橋區月島ニ於ケル實地調査報告、第一輯、大正10年12月(1921)。

秋田縣山本郡富根村ニ於ケル農村保健衛生狀態實地調査報告、大正11年3月(1922)。

福井縣今立郡栗田部村ニ於ケル農村保健衛生狀態實地調査報告、大正11年3月(1922)。

愛媛縣越智郡清水村ニ於ケル農村保健衛生狀態實地調査報告、大正11年11月(1922)。

佐賀縣杵島郡佐留志村ニ於ケル農村保健衛生狀態實地調査報告、大正12年3月(1923)。

奈良縣生駒郡筒井村ニ於ケル農村保健衛生狀態實地調査報告、大正12年3月(1923)。

15) **Pettenkofer und Ziemssen** : Handbuch der Hygiene I. Bd I. Ernährung. S. 13-308. Leipzig. (1882).

16) **Rose**, : The Foundations of Nutrition. new York. (1927).

17) **Rubner**, : Wandlungen in der Volksernährung. Leipzig. (1913).

18) **島國順次郎** : 本邦人ノ食物ニ就テ、國民衛生第1卷第1號、P. 26-42. 大正12年9月(1923).

Avitaminosen u. verwandte Krankheitszustände "Beriberi", S. 660.

19) **清水正雄、山田俊太郎** : 都市民ノ食料調査其二、紡績女工及ビ女生徒ノ食料調査、國民衛生、第1卷第10號、P. 17-28. 大正13年6月(1924)。

20) **下田吉人** : 脚氣病研究會報告演說、昭和2年5月(1927)。

21) **須藤憲三** : 食物及營養概論、大正2年4月(1913)。

22) **鈴木梅太郎** : ザキタミソシツ説ノ發達ト營養學說ノ變遷、東京醫事新誌、第2461號、P. 617-624. 大正15年3月(1926)。

23) **照內豊** : 脚氣病豫防試驗食物トシテ熱米ト營養不完全ナル精米トニ就キテ、同(續)、臨時脚氣病調査會報告、明治44年3月及5月(1919)。

照內豊、**大山綱憲** : 脚氣豫防ノ實際的方法、日本消化機病學會雜誌、第26卷第2號、P. 59-64. 昭和2年2月(1927)。

24) **戸田正三** : 國民營養論、國民衛生第1卷第4號、P. 1-9. 大正12年12月(1923)。

同 : 第1卷第5號、P. 1-9. 大正13年1月(1924)。

同 : 第1卷第6號、P. 1-15. 大正13年2月(1924)。

同 : 第1卷第7號、P. 1-13. 大正13年3月(1924)。

同 : 第1卷第8號、P. 1-10. 大正13年4月(1924)。

同 : 第1卷第9號、P. 1-14. 大正13年5月(1924)。

再ビ國民營養ノ現在ト將來ニ就テ。國民衛生第4卷第5號、P. 503-517. 昭和2年1月(1927)。

同 : 第4卷第6號、P. 637-650. 昭和2年2月(1927)。

同 : 第4卷第8號、P. 959-979. 昭和2年4月(1927)。

* 直接見ルコトヲ得ザリシモノナリ。